

令和5年度 檜原村住民対話集会

令和5年9月26日(火) 19時30分～21時00分

人里コミュニティセンター

村側出席者：村長、副村長、教育長、産業環境課長、教育課長、都民の森管理事務所長、
企画財政課主幹

参加人数：54人

《意見交換》

■自治会館の管理を任されている。維持管理にお金がかかり行政で面倒を見てほしい。

→【村長】

村でも検討している。コミセンの有る場所と無い場所があり、数馬はコミセンが無い。自治会振興交付金のようなもので、コミセンの有る地区と無い地区を区別したほうが良いのか、均等が良いのか考えている。コミセンで料金を取っているところもある。同じ条件で使ってほしい。村の選挙の前に講演会の会議等で使えるようにしたい。条件も検討していきたい。

■歩道の件、草が茂っている部分がある。車道に出ないと歩けないところがある。反対側は綺麗に整っている箇所もある。村の管理でなければ都へ話してほしい。

→【村長】

西多摩建設事務所と近いうちに会議を持つのでかけあう。歩道の草刈が行われていないのは確認している。歩道にポールがある場所もあるので要望していく。

■都道で草を刈っている箇所と刈っていない箇所がある。

→【村長】

都へ要望として伝えていく

■西多摩建設事務所管内や奥多摩周遊道路は、道路状況が綺麗である。それより下はやらない。やっても1回か2回。工区が違ふとこういう対応となるのか。その辺も踏まえて対応してほしい。

→【村長】

これが事実である。工区に伝えていく。

■客が多い。もみじの里を8年くらいやってもみじも大きくなった。11月にはライトアップと祭りをやりたい。しかし、道を整備しないと安全にお客様に歩いてもらえない。歩道

の整備をしてほしい。また、観光地であるのにトイレにウォシュレットがついていない。トイレは大事であり、是非設置してほしい。

→【村長】

私ももみじの会員でやってきた。安全なガードレールを付けないと難しい。草刈等は応援したいが、道は難しい。今の車での送迎となるのかも。検討課題としたい。ウォシュレットは検討していきたい。

■図書館まで距離があるため、図書館の貸出・返却カウンターの増設をお願いしたい。移動図書館では村外から借りた本は返せない。

→【教育課長】

図書館の人員配置等もある。検討させてもらう。

■和田にある防火水槽(コミセンの下)、車は軽が入れる程度。しだれ桜側からは入れない。橋が広がれば車が走行可能。緊急車両のことを考慮すると、上側部分か下側部分かどちらかを広げてほしい。

→【村長】

上側部分から入るような考えが良いと思う。現地を調査・確認したい。

■浅間への登山道は、人家から先が狭い。段差もあるので高齢者には厳しい箇所がある。整備してほしい。

→【村長】

登山道について、草刈は行っていないと思う。また、看板を含めて担当部署に指示し、整備を検討する。

■産廃の条例を弁護士と相談しているようだが、専門の諮問会議を早く設置してほしい。エコツーリズムの認定も取っている。環境保全条例を速やかに作ってほしい。また、それを建築基準法の基準を上回る条例にできないか。産廃施設 200 m²以下なら水質検査は必要無い。村できちんと条例を整備してほしい。

■電気柵を張ってもサルが入ってくる。テストパターンとして3か所で実証をしていると思うが、それを参考に電気柵を張れる補助を作れないか。農業、林業に力を入れてほしい。駆除は出ているが、猟師を覚えてしまっている。

→【村長】

条例は弁護士と相談し、早急に作る用意をしている。国の基準を上回り条例を制定することは、特別な場合でも時間・手間がかかる。環境保全条例の中に市民条例を組み込むことを検討している。電気柵は大学とも協定を結んで行っている。今後、電気柵の設置等も指

導していくので、産業環境課にて相談・対応していく。

→【産業環境課長】

テストパターンは3か所で検証しているので今後公表する。個人の電気柵設置補助は現在9割補助、5年で上限24万円を補助という規定である。紫外線によって電気柵の網が痛むこと、また、物価高騰を考慮し、電気柵の5年の期間を3年に短くし、上限も変更したいと考えている。また、相模原にある、麻布大学の生徒が各地域を回って点検等行うこととなる。

- サルにGPS発信機を付けているが、これを活用してホームページで教えるサービスは考えていないか。

→【産業環境課長】

檜原村には現在、4つのサルの群れがありGPSを付けているが、現在はリアルタイムでは追えていない。今年から固定式の受信基地局を10器用意して、リアルタイムで追えるようにしていく。試験運用を終えれば、今後お知らせできるようになるのではないかと考えている。

- 人里コミセンのグラウンドは自由に駐車する人がいるのが現状だ。関係者以外が駐車できないように注意喚起ができないか。

→【村長】

管内での事故は自己責任でお願いするという看板は設置してある。分かりにくい、設置していないということであれば確認し検討する。また、入口に一時停止のラインが引けないか、検討していく。

- 数馬の浄水場に何か投げ入れられたりする心配があるため、屋根が設置できないか。また、下川乗会館のポンプがオーバーフローしており、もったいない。

→【村長】

浄水場に柵は設置している。砂ろ過なので今のところは整備を考えていない。

→【産業環境課長】

北秋川浄水場は膜ろ過とした。砂ろ過の方が、水がおいしいとは聞いているが、ゆくゆくは南の浄水場も検討していきたい。また、タンクのオーバーフローは修理のための部材を手配中であり、今は待っている状況である。

- 人里には小学生が数人しかいない。放課後の過ごし方が心配。児童館があるが、小さいうちはそこでよいが大きくなると友達のところへ行く。児童館以外の放課後の過ごし方の選択肢を増やしてあげたい。児童館のグラウンドも遊具が少ない。ドックランの跡地を遊び場にできるのでは。子供たちは奥にある人里を知らないのではないか。

檜原の良いところを知らない。子供たちが自由に行き来できる方法を考えてほしい。子育てしやすいのは親の目線であり、子供の目線で住みやすい村としたい。村がパイオニアとなるような奇抜な事業ができないか考えてほしい。また、中学校の部活も陸上部と吹奏楽しかない。他の学校と合同でできないか。

→【村長】

村全体でも1年に生まれる子供は7～10人で、子供を見かける機会は少なくなったと実感している。児童館以外の遊び場等、奇抜な取組はどんなものが良いか提案してもらいたい。

→【教育長】

檜原のことを知らないまま育つ子供は多くなっている。檜原のことについて全体的に学習する機会を設けている。部活動については、全校で27名。野球をすることもできない。他の地域へ出かけるのも時間がかかる。部活動の地域移行の方針も国から出ている。日の出町・あきる野市へ出ていくか、村内で指導者を呼び部活動を行うか検討している。村の中学校だけで集団スポーツを行うことは厳しいと感じている。

■提案しても前例がない、予算がないと言われあまり聞いてもらえなかった。受け入れる側も歩み寄ってほしかった。

→【村長】

提案していただき、可能なものなら検討・実施していきたい。

■子供は檜原村の奥のほうに行ったことがない。住居エリア以外に行くことがない。

■村外から人が来る場合には、武蔵五日市駅から来る。現在、タイムズの駐車場になっているところに交流施設を作るという計画は以前からあったが、ここで急に動き出した。あきる野市の土地であるが、檜原村・日の出町の合意が必要であると考え、あきる野市は同意を得ているといっている。どのようなものを作るのか。施設ができればその関わり方について教えてほしい。

→【村長】

日の出町、あきる野市から話は来ている。旧五日市町が補助金を受け用地を購入したまま現在に至っている。五日市線の開通120周年を記念し、駅前用地を再整備するという流れ。施設を作る際、費用面や負担はかからないという話は聞いている。村の方では同意をし、詳細については協定で詰めていく予定。

■内容は詳細が決まっておらず、費用面が発生しないということなのか。というのも、この計画は以前同意した内容からは大きく変更する予定であり、現在の計画は村が同意しているとあきる野市は回答している。

→【副村長】

あきる野市からは3市町村の観光の拠点として予定していると聞いている。建設費はあきる野市の全額負担で、施設の中身など詳細は協定書もしくは覚書という形で調整をしていく。設計のプロポーサルを行うという話は聞いている。

■止まっていたものが急に動き出した。もう少しオープンに話しても良いのではないか。急いで決めているのではないか。合意できないことも考えている。駅前については少し急いで進めすぎではないか。村としても情報の発信をしてほしい。

■PFAS(有機フッ素化合物)の件、都・市町村で値が違うが村は数値を出していないか。

フッ素は体に入ると蓄積されなかなか排出されない。フライパンを使うのもやめた。東京都の水は安全といわれていたが、この状況であると一番危ないといえる。檜原村に住む前は立川の水を飲んでいたが心配だった。産廃を置くとPFASが出る。東京消防庁では現在の泡消火剤は大丈夫といわれている。活性炭を入れると大丈夫ともいわれている。檜原村でも漏れた土壌や泡消火剤設置箇所の土壌を調べてほしい。

→【村長】

横田基地から流出したものが下流に流れたと新聞で報じられたことは知っている。浄水場はハチザス沢から取水しているので、消火剤とは結び付かない認識だ。泡消火剤は使用箇所を調べることを検討したい。

→【産業環境課長】

PFAS(有機フッ素化合物)についてはなるべく早めに検査したいと考えている。検査結果が判明次第、公表する予定

■払沢の滝。コロナ前、中、後ペットが多く、子供も沢に入っている。川で泳いでいる。飲料水の取水地となっているのに入られている。入らないようにしてほしい。

→【村長】

滝について、規制を相談していきたい。

■前職で関わっていた立場から意見を述べるが、PFAS(有機フッ素化合物)の件は基準が厳しく、クリアすることは不可能に近い。ヨーロッパの法制化の流れから日本でも法制化されたが、人体への影響は分からず、根拠も無い。安心・安全で数値をクリアすることも重要だが、数値の公表は悪いことも考慮すべき。近年、突然規制された数値を、一般家庭まで下ろすのはとても難しい。測定方法、数値の判断も難しい。数値だけで判断せず、よく勉強することが重要だ。

→【産業環境課長】

そのあたりも含めて検討、または数値の公表を行っていく。

■五日市駅前の土地利用の発言に関して、私は若い母親・子供たちに関心があり、サポートしていきたいと思っている。武蔵五日市駅前の土地は、檜原の人のために使えたら良いと思う。バスを待つ間の子供のたまり場や自習の空間、または保護者が仕事帰りに一晩泊まれる場所にできたら良いと思う。たまり場でボランティアとして勉強を教えるのも良いと思っている。開かれた村政としては、今どんなことが進んでいるのか見せていくことが大切。そして最後には村長、議会で決める。情報を見せて色々判断してもらうことが大切。

→【村長】

たまり場で教えてくれるのはありがたい。住民にお知らせする。協定を結ぶということも含めてお知らせの仕方を考えていく。

■条例ができています。しかし、今ある条例が守られていない。道が無くなっている。登山者がわからなくなっていた。道に作用する申請が出ていない。危ないから直してほしいと訴えてようやく直したが、まだ、直りきっていない。公共物を壊すと5万円の罰金となっているが、産業環境課長からそのような見解は無い。

→【産業環境課長】

笛吹地区でもみじの山の事業を進めており、その中を通る作業道のことである。作業道は村からメーターあたりで補助金を出しており、話に挙がっている現場の作業道も補助金を出している状況。補助申請は赤道の手前で止まることとなっていたが、実績報告で赤道に影響があることが発覚した。事実が分かった時点でさかのぼっての工事申請はおかしいので、現地確認を行ったうえで赤道の回復を口頭で指示した。それは事業者側に悪意が認められなかったこと、人里もみじの里の事業に合わせて行われたことを考慮し、判断した。現在は修復済という認識だ。

■もみじの里は関係ない。申請より長い距離で実績報告が出た。道路が削られたことに補助している。本件は条例違反ではないのか。

→【産業環境課長】

相談せずに、また悪意をもって行われればそれは条例違反という認識だ。あくまで事業者側の悪意ではなく不注意の上でのことだったと判断している。また補助金の件については私が判断したが、引き続きご指摘をいただくようであれば、上司の判断を仰ぎたいと考えている。

■条例は悪意の部分とは関係無いのではないかと。

→【産業環境課長】

私が判断したが、不適切であったのならば、上司の判断を仰ぎたいと考えている。

■条例違反の判断は。どこで発表するか。

→次回報告する予定